

明 細 書

省燃費管理システム

技術分野

[0001] 本発明は、トラック等の車両に使用されて好適な省燃費管理システムに関する。

背景技術

[0002] 従来、例えば、トラック等の車両に使用される省燃費管理システムは、主に2つの種類に大別することができよう。一つは、各種センサからの信号に基づいて車載解析装置が車速、エンジン回転数、燃料流量等のデータをメモリに蓄積する。このメモリに蓄積された各種データを、走行終了後に運転者、運行管理者等がメモ리카ード等の記憶媒体に記憶させる。そして、このメモ리카ード等に記憶させた走行データを、事業所あるいは車両メーカーに用意された事業所解析装置に入力し、そのデータに基づいて走行状態の詳細な分析を行うものである。

[0003] 運行管理者は、この詳細データに基づいて予め設定された車速、エンジン回転数、燃料流量等の所定警告値に対し、各運転者がどのような運転を行っているかの管理を行なうことができると共に、運転者は自らの運転状態を客観的な解析データから知ることができ、更なる安全及び省燃費運転に努めようとするものである(特許文献1及び2参照)。しかしながら、このシステムは事業所解析装置の導入に多額のコストを要し、小規模事業者が採用することが難しいという問題がある。

[0004] もう一つの省燃費管理システムは、いわば簡易省燃費管理システムと言えるものであり、車載解析装置が車速、エンジン回転数等を監視し、これらが所定警告値を超えた場合に、運転者にブザー又は擬似音声(以下、ブザー等ともいう)による警告を行なうものである。したがって、運転者は自己の運転状態を、警告という形でその場で知ることができ、直ちに運転を是正することができる。

[0005] また、この所定警告値を超えた時間や回数はメモリに記憶され、必要により、運行管理者は、その超過時間や超過回数を事業所や車両メーカーの事業所解析装置を介して知ることができ、それにより省燃費管理及びそのための運転者への支援を一定

[0008] 一方、上述の従来の省燃費管理システムは、車速等のメモリに蓄積された各種データを、走行終了後に運転者、運行管理者等がメモ리카ード等の記憶媒体に記憶させ、このメモ리카ード等に記憶された走行データを、事業所あるいは車両メーカに備えられた事業所解析装置に投入し、その解析データに基づいて走行の詳細な分析

にそのデータを見ることができず、運転状態の把握が遅れ、実際の運転との突き合わせによる省燃費管理及びそのための運転者への支援が難しいという問題がある。

- [0009] また、上述の従来の省燃費管理システムにおいては、運転者はブザー等による警告という形でその場で自己の運転状態を知ることができる一方、例えば何回そのような超過運転がなされたのか等の詳細については、やはりその後の事業所や車両メーカーの事業所解析装置による分析を待たなければならないという問題がある。さらに、この事業所解析装置は導入及び運用に多額のコストを要し、小規模事業者が採用することが難しいという問題もある。
- [0010] 他方、車両の走行時に減速を行なう場合、アクセルを戻し、最低燃料噴射状態で走行するエンジンブレーキによる減速運転の距離が長ければ長い程、省燃費に貢献することができる。しかしながら、排気ブレーキ、リターダ等に代表される補助ブレーキを装備した車両においては、この補助ブレーキの作動により優れたブレーキ特性を容易に得ることができるため、急減速及びそれに伴う急加速を繰り返す傾向が見受けられ、燃費悪化の大きな要因となっている。
- [0011] これに対し、上述した従来の省燃費管理システムにおいては、特にこの補助ブレーキを装備した車両における、エンジンブレーキによる減速運転を的確にモニタリングするための論理設定がなされておらず、省燃費管理システムとして最も重要な要素が欠けているという問題がある。
- [0012] 本発明はこのような問題を解決するためになされたもので、省燃費管理及びそのための運転者への支援を極めて円滑に行なうことができる省燃費管理システムを提供することを課題とする。より詳細には、警告に対する運転者側の精神的負担を軽減することができる省燃費管理システム、車載解析装置に記憶させた车速等の所定警告値等の所定警告条件を迅速かつ容易に設定変更することができる省燃費管理システム、運転者や運行管理者が車両上でそのときの運転状態を直ちに、かつ正確に知ることができ、運転者の省燃費意識を一段と向上させることができると共に、分析までの一連の省燃費管理を車載解析装置だけで行なうこともでき、小規模事業者がより

ことができ、燃費管理の飛躍的な精度向上を図ることができる省燃費管理システムを提供することを課題とする。

課題を解決するための手段

- [0013] 上述の課題を解決するために、本発明が採用する手段は、車両の走行状態に関する情報を検出する情報検出手段と、情報検出手段が検出した情報を処理すると共にこの処理情報が所定警告条件を満たしたときに警告を発生する情報処理手段と、上記処理情報を記憶する情報記憶手段とを車両上に備えた省燃費管理システムにおいて、情報処理手段は、上記処理情報が所定警告条件を満たしている時間又は上記処理情報の経過時間が所定設定時間を超過したときに、この超過の発生を情報記憶手段に記憶させることにある。
- [0014] このように、警告の発生と同時にこの警告の発生を情報記憶手段へ記憶させるのではなく、警告を一旦運転者に与えた後に、なおかつその所定警告条件を満たすような運転を所定設定時間を超えて継続した場合に、はじめて超過の発生を情報記憶手段へ記憶させるようにすることにより、運転者に精神的負担を感じさせずに、自己の運転を是正する機会を与えることができる。
- [0015] また、上述の課題を解決するために、本発明が採用する手段は、車両の走行状態に関する情報を検出する情報検出手段と、情報検出手段が検出した情報を処理すると共にこの処理情報が所定警告条件を満たしたときに警告を発生する情報処理手段とを車両上に備えた省燃費管理システムにおいて、この所定警告条件を変更することができる設定器を車両上にさらに備えたことにある。
- [0016] 所定警告条件を変更することができる設定器を車両上に備えることにより、省燃費管理システムの所定警告条件の設定変更を行なう場合に、車載解析装置を一旦車両から取り外し、それを事業所や車両メーカーに送って設定変更したり、あるいは、予めこの所定警告条件を記憶させたメモ리카ードを介して、車載解析装置の所定警告条件を設定変更する必要がなくなる。
- [0017] さらに、上述の課題を解決するために、本発明が採用する手段は、車両の走行状

する。さらにこの処理情報は別に音口付けを備へたことにより音口を充てた情報は、手段と、処理情報を記憶する情報記憶手段とを車両上に備えた省燃費管理システムにおいて、設定器を車両上にさらに備え、情報処理手段は、処理情報が所定警告条件を満たしている時間又は上記処理情報の経過時間が所定設定時間を超過したときにこの超過の発生を情報記憶手段に記憶させ、設定器は、所定警告条件及び又は所定設定時間を変更することができることにある。これにより、上記2つの作用を同時に奏することができ、省燃費管理及びそのための運転者への支援を、より円滑に行なうことができる。

[0018] 上記省燃費管理システムにおいて、車両の走行状態に関する情報は、アクセル開度を含むことが望ましい。アクセル開度は、車両の燃費に大きく影響する。したがって、アクセル開度情報を入手することにより、様々な省燃費管理に利用することができる。

[0019] この省燃費管理システムにおいて、処理情報は、アクセル開度、及び又はアクセル開度の単位時間当たりの変動量であるアクセル開度変動を含むことがさらに望ましい。運転者に対しアクセル開度や特に高速道路走行における燃費に大きく影響するアクセル開度変動に基づく警告を行い、あるいはその超過の発生を情報記憶手段に記憶させるようにすることにより、省燃費管理を的確に行なうことができる。

[0020] この省燃費管理システムにおいて、車両は、車速を所定速度以下に自動調整可能なスピードリミッタを備え、情報処理手段は、スピードリミッタが作動していないときに上記アクセル開度に関する警告を行なうことがさらに望ましい。スピードリミッタの作動時には、運転者がアクセルを踏み込みアクセル開度が過大となっても、スピードリミッタによって燃料が所定速度に応じた噴射量を超えて噴射されることはない。したがって、アクセル開度に関する運転者への警告等はスピードリミッタが作動していないときに行えばよい。これにより、無用な警告を回避することにより、運転者へ与える不快感を排除することができる。

[0021] 上記省燃費管理システムにおいて、処理情報は、一般道路処理情報と高速道路処理情報とからなることが望ましい。例えば高速道路走行中に、前車との車間距離が適

める。このように燃費を仮燃費と見なす、この仮燃費はあくまでも目安である。

に、特に高速道路走行における燃費悪化の最大要因になっている。このように、一般道路走行と高速道路走行とは、省燃費管理の視点が異なり、それに伴って燃費解析に必要な情報も異なる。このため、一般道路走行と高速道路走行のそれぞれの情報ごとに所定警告条件の設定変更を可能にし、あるいは超過の発生を情報記憶手段に記憶させるようにすることにより、省燃費管理をさらに的確に行なうことができる。

[0022] この省燃費管理システムにおいて、一般道路処理情報は、車速、エンジン回転数、アクセル開度、アイドリング経過時間のいずれか一つ又は二つ以上の任意の組み合わせからなることがさらに望ましい。情報処理手段は、これらの処理情報に基づいて的確に一般道路走行時の警告等を行なうことができる。

[0023] この省燃費管理システムにおいて、情報処理手段は、車両の走行状態に関する情報として燃料流量を検出し、燃料流量が所定設定値を超えると上記エンジン回転数に関する警告を行なうことがさらに望ましい。エンジンブレーキ作動時は、エンジン回転数が高まり所定警告条件を満たしたとしても、エンジンは最低燃料噴射状態にあるから、燃費を悪化させることにはならない。したがって、このような場合に運転者への警告等を行なう必要はなく、無用な警告を回避することにより、運転者へ与える不快感を排除することができる。

[0024] 上記省燃費管理システムにおいて、高速道路処理情報は、車速、アクセル開度変動、車速変動、トップギア不使用経過時間、補助ブレーキ使用率のいずれか一つ又は二つ以上の任意の組み合わせからなることがさらに望ましい。情報処理手段は、これらの処理情報に基づいて的確に高速道路走行時の警告等を行なうことができる。

[0025] この省燃費管理システムにおいて、情報処理手段は、車両の走行状態に関する情報としてアクセル開度を検出し、アクセル開度が所定設定値を超えると上記車速に関する警告を行なうことがさらに望ましい。例えば、高速道路の下り坂走行時には、下り勾配により車速が高まり所定警告条件を満たすようになっても、アクセル開度が小さければ実際の燃料噴射量は少ないから、燃費を悪化させることにはならない。したがって、このような場合に運転者への警告等を行なう必要はなく、無用な警告を回

0026) 本発明が従来技術に比べて、情報処理手段は、省燃費エンジンが警告
え可能であり、設定器は、情報処理手段に対しこの切替えを可能に設定することがで
き、情報処理手段は、設定器によってこの切替えが可能に設定されたときに、警告の
発生の無しへ切り替えることができることが望ましい。車両の走行状態によっては、運
転者が警告を発生させないように切り替えることができるようにしておくことも必要であ
る。しかしながら、運転者がその切替えを自由に行なうことができるとすると、適切な
省燃費管理ができなくなる恐れが生じる。このため、運行管理者等が設定器によって
この切替えを可能に設定したときに、はじめて運転者が警告の発生の無しへ切り替え
ことができるようにすることにより、そのような恐れを確実に排除することができる。

[0027] 上述の課題を解決するために、本発明が採用する手段は、車両の走行状態に関
する情報を検出する情報検出手段と、情報を処理する情報処理手段と、情報処理手
段が処理した処理情報を記憶する情報記憶手段とを車両上に備えた省燃費管理シ
ステムにおいて、情報記憶手段に記憶された処理情報に関する情報を出力すること
ができるプリンタを車両上に備えたことにある。

[0028] このように、プリンタを車両上に備えることにより、運転者や運行管理者は、車両上
でそのときの運転状態を直ちに、かつプリントアウトされた形で正確に知ることができ
るようになる。また、分析までの一連の管理を車載解析装置だけで行なうこともでき、
特に設備導入や運用に多額のコストを要する事業所解析装置を不要にすることができ
る。

[0029] この省燃費管理システムにおいて、情報処理手段は、上記処理情報が所定警告条
件を満たしたときに警告を発生し、かつ処理情報が所定警告条件を満たしている時
間又は上記処理情報の経過時間が所定設定時間を超過したときに超過の発生を情
報記憶手段に記憶させ、プリンタは、上記警告の発生及び又は上記超過の発生に
関する情報を出力できることが望ましい。

[0030] 警告の発生と同時にその警告の発生を情報記憶手段へ記憶させるのではなく、警
告を一旦運転者に与えた後に、なおかつその所定警告条件を満たす運転を所定設
定時間を超過して継続した場合に、はじめて超過の発生を情報記憶手段へ記憶させる

1 既述したように、このように、運転者や運行管理者は、そのときの超過に係わる運転状態をその場で正確に知ることができ、運転者の省燃費意識をより一層向上させることができる。

- [0031] この省燃費管理システムにおいて、情報処理手段は、上記超過の発生回数を算出し、超過の発生回数から超過発生率を算出し、この超過発生率が所定設定値を超えたとき、プリンタから出力される処理情報に関する情報に警告マークを表示させることがさらに望ましい。このように、処理情報毎に警告マークを表示させることにより、運転者は、どの処理情報に関する超過発生率が所定設定値を超えたかを、プリンタの出力から瞬時に知ることができる。例えば、この超過発生率は、車両の走行距離に対するものである。
- [0032] 上記省燃費管理システムにおいて、情報処理手段は、車両の燃料消費率を算出し、プリンタは、燃料消費率を出力することが望ましい。車両の燃料消費率は、従来、車両上で知ることができず、後の事業所解析等を待たなければならなかった。しかし、車両上のプリンタから燃料消費率を出力することができれば、運転者の省燃費意識を一段と向上させることができる。
- [0033] 上記省燃費管理システムにおいて、車両の運行開始時に操作する運行開始スイッチと、プリンタの出力時に操作する印字スイッチとをさらに備え、情報処理手段は、運行開始スイッチの操作時に情報記憶手段に記憶された処理情報に関する情報の消去及び処理情報に関する情報の情報記憶手段への記憶の再開を行なうと共に、印字スイッチの操作時に情報記憶手段に記憶された処理情報に関する情報の消去を行なうことが望ましい。
- [0034] このように、運行開始スイッチに、情報記憶手段に記憶された処理情報に関する情報の消去及び情報記憶手段への記憶の再開を行なう機能を与え、かつ、印字スイッチに、情報記憶手段に記憶された処理情報に関する情報の消去を行なう機能を与えることにより、情報記憶手段に記憶された処理情報に関する情報の消去を行うためのスイッチを別途設ける必要がなくなり、製造コストの低減及びスイッチ操作の単純化

00036] 上記燃料流量計の出力値に基づいて、所定警告条件及び又は所定設定時間を設定変更することができる設定器を車両上にさらに備え、プリンタは、この設定器により設定変更された所定警告条件及び又は所定設定時間を出力できることが望ましい。

[0036] このように、所定警告条件を変更することができる設定器を車両上に備えることにより、省燃費管理システムの所定警告条件の設定変更をする場合、車載解析装置を一旦車両から取り外し、それを事業所や車両メーカーに送って設定変更したり、あるいは、予めこの所定警告条件を記憶させたメモ리카ードを介して、車載解析装置の所定警告条件を設定変更する必要がなくなる。また、車両上のプリンタから、この設定変更された所定警告条件や所定設定時間を出力することができれば、それらが正しく入力されたか否かをプリントアウトされた形で直ちに確認することができる。

[0037] 上述の課題を解決するために、本発明が採用する手段は、補助ブレーキを有する車両の燃費に関する解析を行なう車載解析装置及び又は事業所解析装置を備えた省燃費管理システムにおいて、車両の燃料流量及び又はアクセル開度と補助ブレーキの使用に関する情報とを検出する情報検出手段を車載解析装置に備え、上記燃料流量及び又はアクセル開度と上記補助ブレーキの使用に関する情報とに基づいてアクセル開度ゼロ状態かつ補助ブレーキ不使用状態で走行した累積走行距離を算出する情報処理手段と、情報処理手段が算出した累積走行距離を記憶する情報記憶手段とを上記車載解析装置及び又は事業所解析装置に備えたことにある。

[0038] 上述のとおり、補助ブレーキを装備した車両において、アクセルを戻し、最低燃料噴射状態で走行するエンジンブレーキによる減速運転の距離が長ければ長い程、省燃費に貢献することができる。しかしながら、この間、排気ブレーキ等の補助ブレーキを使用すれば、無駄な減速となり、またこれに応じて再びアクセルを踏み込んで加速する必要が生じ、燃費悪化の極めて大きな要因となっている。したがって、このアクセルを戻し、かつ補助ブレーキ不使用で走行した累積走行距離を算出することにより、エンジンブレーキによる減速運転を的確にモニタリングすることができ、省燃費運転に対する解析データを運転者や運行管理者に最適に提供することができる。

[0039] この省燃費管理システムにおいて、アクセル開度ゼロ状態は、燃料流量が所定設

レバ、ノゾヒルを大シヤンノノレ、ハハ怒シ生リタるモノ、四ノハ、ノイ、ヒノレ
ンジンでは燃料ゼロ噴射となるが、実際には、燃料流量計の表示はゼロにはならない
ことが多い。また、ガソリンエンジン車では、常に一定の燃料噴射がある。そこで、車
両の走行時における最低燃料流量を近似する所定設定値未満となったとき、かつ又
は、アクセル開度が略ゼロとなったときを判定条件とすることにより、車両のアクセル
開度ゼロ状態をほぼ正確に捕らえることができることができる。

[0040] この省燃費管理システムにおいて、車両は、車速を所定車速に自動調整可能なオ
ートクルーズシステムを備え、情報処理手段は、オートクルーズシステムの作動時に
は燃料流量が所定設定値未満となっているときにアクセル開度ゼロ状態とすることが
さらに望ましい。オートクルーズシステムの作動時には、運転者はアクセル操作を行
わないため、アクセル開度によってアクセル開度ゼロ状態を判定することは困難であ
る。したがって、この場合には、燃料流量が所定設定値未満となっているときにアクセ
ル開度ゼロ状態とすることが必要である。

[0041] 上記省燃費管理システムにおいて、車両の車速を検出する情報検出手段をさらに
備え、情報処理手段は、情報検出手段が検出した車速と、アクセル開度ゼロ状態か
つ補助ブレーキ不使用状態で走行した経過時間とに基づいて累積走行距離を算出
することが望ましい。車速を検出する情報検出手段として、車両はすでに車速センサ
を備えているのが一般的であり、この手段により累積走行距離を入手することが最も
簡易かつ正確である。

[0042] 上記省燃費管理システムにおいて、情報記憶手段が記憶した累積走行距離を出
力することができるプリンタを車載解析装置に備えることが望ましい。このようにするこ
とにより、運転者や運行管理者は、そのときの運転状態を任意のときに、実走行と対
比させて迅速かつ正確に知ることができ、運転者等の燃費向上への意識をさらに高
めることができる。

発明の効果

[0043] 本発明の省燃費管理システムは、車両の走行状態に関する情報を検出する情報
検出手段と、情報検出手段が検出した情報を処理すると共にこの処理情報が所定警

情報記憶手段とを車両上に備えた省燃費管理システムにおいて、情報処理手段は、上記処理情報が所定警告条件を満たしている時間又は処理情報の経過時間が所定設定時間を超過したときに、この超過の発生を情報記憶手段に記憶させるから、警告に対する運転者側の精神的負担を軽減することができる。

[0044] また、車両の走行状態に関する情報を検出する情報検出手段と、情報検出手段が検出した情報を処理すると共にこの処理情報が所定警告条件を満たしたときに警告が発生する情報処理手段とを車両上に備えた省燃費管理システムにおいて、この所定警告条件を変更することができる設定器を車両上にさらに備えるから、車載解析装置に記憶させた車速等の所定警告値等の所定警告条件を迅速かつ容易に設定変更することができる。

[0045] また、車両の走行状態に関する情報を検出する情報検出手段と、情報を処理する情報処理手段と、情報処理手段が処理した処理情報を記憶する情報記憶手段とを車両上に備えた省燃費管理システムにおいて、情報記憶手段に記憶された処理情報を出力することができるプリンタを車両上に備えるから、運転者や運行管理者が車両上でそのときの運転状態を直ちに、かつ正確に知ることができ、運転者の省燃費意識を一段と向上させることができると共に、分析までの一連の省燃費管理を車載解析装置だけで行なうこともでき、小規模事業者がより一層容易に導入することができる。

[0046] また、補助ブレーキを装備した車両の燃料流量、アクセル開度のいずれか一方又は双方と補助ブレーキの使用に関する情報とを検出する情報検出手段を車載解析装置に備え、アクセル開度ゼロ状態かつ補助ブレーキ不使用状態で走行した累積走行距離を算出する情報処理手段と、情報処理手段が算出した累積走行距離を記憶する情報記憶手段とを車載解析装置及び又は事業所解析装置に備えるから、特に補助ブレーキを装備した車両におけるエンジンブレーキによる減速走行を的確にモニタリングすることができ、燃費管理の飛躍的な精度向上を図ることができる。

[0047] したがって、本発明の省燃費管理システムは、省燃費管理及びそのための運転者への支援を極めて円滑に行なうことができるという優れた効果を奏する。

「図1」図1は、本省燃費管理システム全体の構成を示すブロック図である。

〔図2〕図2は、図1とは別の省燃費管理システムを示すブロック図である。

〔図3〕図3は、プリンタの警告設定レポートを示す図である。

〔図4〕図4は、プリンタの定時レポートを示す図である。

〔図5〕図5は、プリンタの超過集計レポートを示す図である。

〔図6〕図6は、通常の場合の、運行開始スイッチと印字スイッチの操作を説明するための図である。

〔図7〕図7は、前日の運行終了時に印字スイッチを押し忘れた場合の、運行開始スイッチと印字スイッチの操作を説明するための図である。

〔図8〕図8は、当日の運行開始時に運行開始スイッチを押し忘れた場合の、運行開始スイッチと印字スイッチの操作を説明するための図である。

〔図9〕図9は、警告の発生の切替えを説明するための図である。

〔図10〕図10は、本省燃費管理システムの警告モニタリングを示すフローチャートである。

〔図11〕図11は、図10中の走行処理を示すフローチャートである。

〔図12〕図12は、図11中の一般道路処理を示すフローチャートである。

〔図13〕図13は、図12の一般道路処理の続きを示すフローチャートである。

〔図14〕図14は、図11中の高速道路処理Iを示すフローチャートである。

〔図15〕図15は、図14の高速道路処理Iの続きを示すフローチャートである。

〔図16〕図16は、図15の高速道路処理Iの続きを示すフローチャートである。

〔図17〕図17は、図11中の高速道路処理IIを示すフローチャートである。

〔図18〕図18は、図17の高速道路処理IIの続きを示すフローチャートである。

〔図19〕図19は、図18の高速道路処理IIの続きを示すフローチャートである。

〔図20〕図20は、図19の高速道路処理IIの続きを示すフローチャートである。

〔図21〕図21は、図10中のアイドル処理を示すフローチャートである。

〔図22〕図22は、本省燃費管理システムの減速運転モニタリングを示すフローチャートである。

付 属 説 明

- [0049]
- 1 車載解析装置
 - 2 解析装置本体
 - 3 CPU
 - 4 メモリ
 - 5 スピーカ
 - 6 車載プリンタ
 - 7 アクセル表示器
 - 8a 設定確認スイッチ
 - 8b 印字スイッチ
 - 8c 警告切替えスイッチ
 - 8d 運行開始スイッチ
 - 10 ECU
 - 11, 16 車速センサ
 - 12, 17 エンジン回転数センサ
 - 13, 18 アクセル開度センサ
 - 14, 19 燃料流量センサ
 - 15, 20 補助ブレーキ作動部
 - 21 設定器
 - 22 セレクタスイッチ
 - 23 設定変更スイッチ
 - 24 警告設定スイッチ
 - 31 メモリカード
 - 32 事業所解析装置
 - 41 警告設定レポート
 - 42 エンジンシリンダ数
 - 43 エンジン定格出力回転数

スロージョイント回転数/分表示

- 46 アクセル開度所定警告値
- 47 アイドリング経過時間所定警告値
- 48 車速所定設定時間
- 49 エンジン回転数所定設定時間
- 50 プリンタの作動表示
- 51 警告の作動表示
- 61 定時レポート
- 62 印字日時
- 63 車速超過回数
- 64 アクセル開度超過回数
- 65 エンジン回転数超過回数
- 66 アイドリング超過回数
- 71 超過集計レポート
- 72 集計開始時刻
- 73 集計終了時刻
- 74 車速超過回数
- 75 アクセル開度超過回数
- 76 エンジン回転数超過回数
- 77 アイドリング超過回数
- 78 累積走行距離
- 79 燃料消費量
- 80 燃料消費率
- 81 走行比率
- 85, 86 警告マーク
- A アクセル開度
- Ao 所定設定値

に用いられる記号は、

E エンジン回転数

F 燃料流量

Fo 所定設定値

L 走行距離

S 車速

So 所定設定値

dS 車速変動

Ti, Tt 経過時間

TL 累積走行距離

A1, A2, dA2, B2, E1, S2, dS2 所定警告値

Ti3, Tt2 所定警告時間

Ta1, Ta2, Tda, Tb, Tds, Te, Ts0, Ts2 超過時間

T01, T11, T12, T21, T22, T23, T24, T25, T26, T31 所定設定時間

発明を実施するための最良の形態

[0050] 本発明に係る省燃費管理システムを実施するための最良の形態を、図1ないし図2
3を参照して詳細に説明する。

[0051] 図1に示すように、車載解析装置1は、例えば補助ブレーキを装備したトラック等の
車両に搭載され、解析装置本体2と、車速センサ11等の各種情報検出手段と、設定
器21とを有する。解析装置本体2は、情報を処理するCPU(情報処理手段)3、CP
Uにより処理された処理情報を記憶するメモリ(情報記憶手段)4、CPUからの指令に
よりブザー又は擬似音声による警告を行なうスピーカ5、メモリに記憶された情報を出
力する車載プリンタ6、そのときのアクセル開度Aを運転者に視覚的に知らせるため
のアクセル表示器7を有する。なお、車載プリンタ6は、解析装置本体2から分離して
別置きとしてもよい。また、警告はスピーカ5によるのではなく、ランプ点灯によって行
なうこともできる。

[0052] 車両にECU10が搭載され、このECU10がいずれも情報検出手段である車速セン

とを電氣的に接続する。一方、車両がECU非搭載車の場合には、図2に示すように、いずれも情報検出手段である車速センサ16、エンジン回転数センサ17、アクセル開度センサ18、燃料流量センサ19を配設し、これらと解析装置本体2とを電氣的に接続する。また、補助ブレーキ作動部(情報検出手段)20と解析装置本体2とを電氣的に接続する。

[0053] 上述の補助ブレーキ作動部15, 20からは、補助ブレーキの使用状態がECU10を介して又は直接、解析装置本体2へ入力される。この補助ブレーキとは、例えばトラック等では、排気ブレーキ、リターダ等に代表されるものであるが、必ずしもこれらに限定されるものではない。

[0054] 図1に示すように、設定器21は、各セレクトスイッチ22により、例えば、後述するアクセル開度Aの所定警告値A1, A2 及び所定設定時間T11, T26、アクセル開度変動dAの所定警告値dA2 及び所定設定時間T22、エンジン回転数Eの所定警告値E1 及び所定設定時間T12、車速Sの所定警告値S2 及び所定設定時間T21、車速変動dSの所定警告値dS2 及び所定設定時間T23、トップギア不使用の所定警告時間Tt2及び所定設定時間T24、補助ブレーキ使用率Bの所定警告値B2 及び所定設定時間T25、アイドリングの所定警告時間Ti3及び所定設定時間T31等を設定変更することができる。

[0055] また、後述するように、車載プリンタ6からは必要なレポートを定時毎に出力させることができるが、この定時出力の有無等の設定変更等、その他の種々の設定を行うことができる。各種設定は、設定変更スイッチ23を押すことにより、解析装置本体2へ送られる。

[0056] 車載プリンタ6からは、種々のレポートを出力することができる。ここでは、代表的な3例について説明する。図3は、警告設定レポート41を示す。警告設定レポート41は、必要により、任意の時刻に出力させることができる。この警告設定レポート41には、例えば、エンジンのシリンダ数42、エンジン定格出力回転数43、車速Sの所定警告値(所定警告条件) S2 44、エンジン回転数Eの所定警告値(所定警告条件) E1 45、ア

ソノリハ言口時間\別ハ言口不ITノモロ、オホ、手速ソノ起過時間\オホ、ソノリハ

定時間T21 48、エンジン回転数Eの超過時間Te に対する所定設定時間T12 49、
車載プリンタ6の作動状態表示50、警告の作動状態表示51が表示される。

[0057] その他、必要により、アクセル開度Aの超過時間Ta1、Ta2に対する所定設定時間T11、T26、アクセル開度変動dAの所定警告値(所定警告条件)dA2 やその超過時間Tdaに対する所定設定時間T22、車速変動dSの所定警告値(所定警告条件)dS2 やその超過時間Tdsに対する所定設定時間T23、トップギア不使用経過時間Tt の所定警告時間(所定警告条件)Tt2やその経過時間Tt に対する所定設定時間T24、補助ブレーキ使用率Bの所定警告値(所定警告条件)B2 やその超過時間Tb に対する所定設定時間T25、アイドリング経過時間Ti に対する所定設定時間T31等を表示させてもよい。

[0058] このように、設定器21により設定変更されたアクセル開度Aの所定設定時間T11等を車載プリンタ6から出力することができるから、この設定変更された所定設定時間T11等を、車両上で直ちに印字された形で正確に確認することができる。

[0059] 図4は、定時レポート61を示す。定時レポート61は、設定により一定時間毎に自動的に出力され、特に重要なパラメータに関する超過回数を、運転者に繰り返し認識させるためのものである。定時レポート61には、印字日時62、後述する車速Sについての超過回数63、アクセル開度Aについての超過回数64、エンジン回転数Eについての超過回数65、アイドリング経過時間Ti についての超過回数66が表示される。

[0060] 図5は、超過集計レポート71を示す。超過集計レポート71は、必要により、任意の時刻に出力させることができる。超過集計レポート71には、集計開始時刻72、集計終了時刻73、車速Sについての超過回数74、アクセル開度Aについての超過回数75、エンジン回転数Eについての超過回数76、アイドリング経過時間Ti についての超過回数77、累積走行距離78、燃料消費量79、燃料消費率80、後述するアクセル開度ゼロ状態かつ補助ブレーキ不使用での累積走行距離TLの全累積走行距離に対する走行比率81が、それぞれ表示される。

[0061] CPU3が、例えば、車速センサ11が検出する車速S、燃料流量センサ14が検出す

その他、アクセル開度変動 dA についての超過回数、車速変動 dS についての超過回数、トップギア不使用についての超過回数、補助ブレーキ使用率 B についての超過回数等を表示させてもよい。

[0062] 車速S、アクセル開度A、エンジン回転数E、アイドルリング経過時間Ti、燃料消費率等は、いずれも省燃費を達成する上で重要な情報であり、特に、燃料消費量については、従来、車両上で知ることができず、後の事業所解析等を待たなければならなかった。車両上のプリンタから燃料消費量を出力することができれば、運転者の省燃費意識を一段と高めることができる。その他、アクセル開度変動dAについての超過回数、車速変動dSについての超過回数、トッギア不使用についての超過回数、補助ブレーキ使用率Bについての超過回数等を表示させてもよい。

[0063] また、上述の車速Sについての超過回数74、アクセル開度Aについての超過回数75、エンジン回転数Eについての超過回数76、アイドルリング経過時間Tiについての超過回数77に関しては、CPU3が、各超過回数74～77を累積走行距離78で除した超過発生率Rs、Ra、Re、Riをそれぞれ算出する。そして、この超過発生率Rs、Ra、Re、Riが所定設定値Rso、Rao、Reo、Rioを超えた場合には、警告マーク85、86が超過集計リポート71の各情報毎にそれぞれ表示される。

[0064] 図5においては、一例として、アクセル開度A及びエンジン回転数Eについての超過発生率 R_a 、 R_e が、それぞれ所定設定値 R_{ao} 、 R_{eo} を超えたことが示される。これにより、運転者は、どの情報に関する超過発生率 R_s 、 R_a 、 R_e 、 R_i が所定設定値 R_{so} 、 R_{ao} 、 R_{eo} 、 R_{io} を超えたかを、超過集計リポート71を参照することにより瞬時に知ることができる。なお、この警告マークの表示は、上述の車速Sについての超過回数74等に限定されるものではなく、例えば、燃料消費率80、アクセル開度ゼロ状態かつ補助ブレーキ不使用での累積走行距離TLの全累積走行距離に対する走行比率81等、他の情報に関して表示させてもよい。

[0065] 上述の警告設定リポート41は解析装置本体2の設定確認スイッチ8aを、また、超過集計リポート71は印字スイッチ8bをそれぞれ押すことにより、任意時に車載プリンタ6

時は、プリンタ 6 へ出力され、車庫内、手動でメモリ 4 へ記憶された各情報は、事業所解析装置 32 に送ることができ、この事業所解析装置 32 により、詳細な分析を行なうこともできる。

[0066] また、車両の運行開始時に、解析装置本体 2 の運行開始スイッチ 8d を押すことにより、CPU 3 が処理した各情報のメモリ 4 への記憶が開始される。この運行開始スイッチ 8d を押す操作、又は、これとは独立に行なう印字スイッチ 8b を押す操作により、それ以前にメモリ 4 へ記憶されていた各情報がすべて消去される。運行開始スイッチ 8d 及び印字スイッチ 8b の操作の一例を、以下に示す。

[0067] 図 6 に、通常の場合を示す。図 6 に示すように、運転者等が当日の車両の運行開始時に運行開始スイッチ 8d を押すことにより、それまでにメモリ 4 へ記憶されていた各情報がすべて消去されると共に、その後 CPU 3 が処理した各情報のメモリ 4 への記憶が開始される。運転者等が当日の車両の帰庫時に印字スイッチ 8b を押すことにより、図 5 に示す超過集計リポート 71 がプリンタ 6 から出力される。この印字スイッチ 8b を押す操作により、それまでにメモリ 4 へ記憶されていた各情報がすべて消去される。

[0068] 図 7 に、運転者等が、前日の運行終了時に上述の印字スイッチ 8b を押し忘れた場合を示す。この場合には、運転者等が当日の車両の運行開始前に印字スイッチ 8b を押すことにより、図 5 に示す超過集計リポート 71 がプリンタ 6 から出力され、また、メモリ 4 へ記憶されていた各情報がすべて消去される。そして、運転者等が運行開始時に運行開始スイッチ 8d を押すことにより、その後 CPU 3 が処理する各情報のメモリ 4 への記憶が開始される。また、運転者等が、通常操作に従って当日の車両の帰庫時に印字スイッチ 8b を押せば、超過集計リポート 71 がプリンタ 6 から出力されると共に、メモリ 4 へ記憶されていた各情報がすべて消去される。

[0069] 図 8 に、運転者等が、当日の運行開始時に運行開始スイッチ 8d を押し忘れた場合を示す。この場合、運転者等が、当日の運行開始時に運行開始スイッチ 8d を押し忘れても、電源が ON となれば、後述するように（図 10、図 22 及び図 23 参照）、本車載解析装置 1 による一連の処理が、前日から引き続いて再開される。この場合、前日にメモリ 4 へ記憶されていた各情報は消去されず、例えば、上述の車速 S についての超

- 。
- [0070] そして、運転者等が当日の車両の帰庫時に、通常操作に従って印字スイッチ8bを押すことにより、図5に示す超過集計リポート71がプリンタ6から出力される。この場合、運転者等は、当日の超過集計リポート71と前日の超過集計リポート71とを比較参照することにより、当日の超過回数等を知ることができる。
- [0071] このように、運行開始8dスイッチに、メモリ4に記憶された各情報の消去及びメモリ4への記憶の再開を行なう機能を与え、かつ、印字スイッチ8bに、メモリ4に記憶された各情報の消去を行なう機能を与えることにより、このメモリ4に記憶された各情報の消去を行うための専用スイッチを別途設ける必要がなくなり、製造コストの低減及びスイッチ操作の単純化を図ることができる。
- [0072] 図9に示すように、上述の車載解析装置1では、運転者等が解析装置本体2の警告切替えスイッチ8cを切り替えることにより、ブザー又は擬似音声等による警告の音量等を大、中、小の3段階に切り替えることができる。図1に示す警告切替えスイッチ8cは押しボタン方式であり、1回押すごとに警告の音量等を大から中へ、また中から小へ順次変えることができる。
- [0073] また、運転者が警告切替えスイッチ8cを押すことにより、ブザー又は擬似音声等による警告を発生させないようにすることもできる。これは、車両の走行状態によっては、運転者が警告を発生させないように切り替えることができるようにしておくことも必要なためである。ただし、運転者が警告の発生の無しへ切り替えることができるのは、予め運行管理者等が設定器21の警告設定スイッチ24を操作して、警告の発生の無しへの切替えを可能に設定しておいた場合に限られる。
- [0074] これは、運転者が警告の発生の有無の切替えを自由に行うことができるとすると、適切な省燃費管理ができなくなる恐れがあるためである。すなわち、運行管理者等が設定器21を用いてこの切替えを可能に設定したときに、はじめて運転者が警告の発生の無しへ切り替えることができるようにしておくことにより、そのような恐れを確実に排除することができる。
- [0075] 次に、本省燃費管理システムによる警告モニタリングについて、図10ないし図21を

- [0070] 図10に示すように、CPU3は、エンジン回転数センサ12、16が検出したエンジン回転数Eを読み込み(ステップS2)、エンジン回転数Eがゼロを超えているか否かを判定する(ステップS4)。ステップS4の判定結果が否定(No)の場合、すなわちエンジンが停止している場合には、状態認知の初期化を行なう(ステップS6)。ステップS4の判定結果が肯定(Yes)の場合、すなわちエンジンが作動している場合には、さらに車速センサ11、16が検出した車速Sを読み込み(ステップS8)、車速Sがゼロを超えているか否かを判定する(ステップS10)。ステップS10の判定結果が肯定の場合、すなわち車両が走行状態の場合には、図11に示す走行処理を実行する(ステップS12)。
- [0077] ステップS10の判定結果が否定の場合、すなわち車両が停止状態の場合には、図21に示すアイドリング処理を実行する(ステップS14)。状態認知の初期化(ステップS6)又は走行処理(ステップS12)又はアイドリング処理(ステップS14)を実行した後、電源がOFFであるか否かを判定する(ステップS16)。ステップS16の判定結果が否定の場合には、再びステップS2以降を繰り返す。ステップS16の判定結果が肯定の場合には、警告モニタリングを終了する。
- [0078] 図11に示すように、走行処理は次のように実行される。CPU3は、ステップS8で読み込んだ車速Sが、車両が高速道路走行をしているか否かを判別するために設定された車速Sの所定設定値 S_0 を超えているか否かを判定する(ステップS20)。ステップS20の判定結果が否定の場合、すなわち車速Sが所定設定値 S_0 以下の場合には、図12及び図13に示す一般道路処理を実行する(ステップS22)。
- [0079] ステップS20の判定結果が肯定の場合には、さらに車速Sが所定設定値 S_0 を超えた超過時間 T_{s0} を検出し(ステップS24)、この超過時間 T_{s0} が、車両が連続高速走行をしているか否かを判別するために設定された所定設定時間 T_{01} を超えたか否かを判定する(ステップS26)。ステップS26の判定結果が肯定の場合には、図14ないし図16に示す高速道路処理I、又は、図17ないし図20に示す高速道路処理IIを実行する(ステップS28)。ステップS26の判定結果が否定の場合には、車両は連続高速走行をしていないと判定して、ステップS22の一般道路処理を実行する。これによ

- [0000] 図12に示すように、図11の 取組路状態は、ステップ、 取組路状態用数として、
- 処理する車速S、エンジン回転数E、アクセル開度A、アイドルリング経過時間Tiを用いて、次のように実行される。車速Sを所定速度以下に自動調整可能なスピードリミッタを備えている車両においては、CPU3は、そのスピードリミッタの作動信号を検出し、スピードリミッタが作動しているか否かを判定する(ステップS100)。例えば、スピードリミッタの作動信号は、ECU10から容易に入手することができる。
- [0081] ステップS100の判定結果が肯定の場合、すなわちスピードリミッタが作動している場合には、図13に示すステップS112以降の処理を実行し、ステップS101ないしS110の処理は実行しない。これは、スピードリミッタの作動時には、運転者がアクセルを踏み込みアクセル開度が過大となっても、スピードリミッタによって燃料が所定速度に応じた噴射量を超えて噴射されることがないためである。したがって、アクセル開度Aに関する運転者への警告等は、スピードリミッタが作動していないときに行えばよい。これにより、無用な警告の発生によって運転者へ与える不快感を排除することができる。なお、スピードリミッタが作動しているときにも、アクセル開度Aに関する運転者への警告等を行うこともできる。
- [0082] ステップS100の判定結果が否定の場合、すなわちスピードリミッタが作動していない場合には、CPU3は、アクセル開度センサ13、18が検出したアクセル開度Aを読み込み(ステップS101)、アクセル開度Aが、アクセルの過剰な踏み込みを行っているか否かを判別するために設けられた所定警告値A1を超えているか否かを判定する(ステップS102)。ステップS102の判定結果が肯定の場合、すなわち運転者がアクセルの過剰な踏み込みを行っているとして判定した場合には、運転者に対しスピーカ5からブザー等による警告を行なう(ステップS104)。
- [0083] 次に、CPU3は、アクセル開度Aが所定警告値A1を超えている超過時間Ta1を検出し(ステップS106)、この超過時間Ta1が所定設定時間Ti1を超えているか否かを判定する(ステップS108)。ステップS108の判定結果が肯定の場合、すなわちステップS104の警告を行なった後も、運転者がさらにアクセルの過剰な踏み込みを継続した場合には、メモリ4に超過カウント値(超過の発生)を加算し、その累積超過回数

て、このアクセル開度Aに基づく警告や超過の発生を記憶させることにより、省燃費管理を的確に行なうことができる。なお、スピードリミッタを装備してしない車両においては、上述のステップS100の判定を行うことなく、ステップS102ないしS110を実行すればよい。

[0087] ディーゼルエンジン車においては、車両走行時の最低燃料噴射量はアクセルを戻したときのゼロであるから、この所定設定値F₀はゼロに極めて近い数値で設定される。ここで、所定設定値F₀をゼロとしないのは、実際の燃料噴射はゼロであっても、燃料流量センサ14、19による計測ではゼロを表示しないことがしばしば発生するためである。また、ガソリンエンジン車においては、車両走行時にアクセルを戻したときにも一定量の燃料噴射があるから、所定設定値F₀はこの燃料噴射量に近い数値で設定される。

[0088] ステップS116の判定結果が肯定の場合には、上述のステップS104～S110と同

超過時間1eを算出(ステップS120)、この超過時間1eが所定設定時間112を越えたか否かの判定(ステップS122)、ステップS122の判定結果が肯定の場合のメモリ4への超過カウント値の加算(ステップS124)を実行する。これにより、累積超過回数及び累積超過時間がメモリ4に記憶される。

[0089] ステップS112の判定結果が否定の場合、すなわちエンジン回転数Eが所定警告値E1以下であり、燃費を悪化させるような回転数になっていないと判定した場合、及び、ステップS116の判定結果が否定の場合、すなわち燃料流量Fが車両走行時の最低噴射に係る所定設定値Fo以下である場合、及び、ステップS122の判定結果が否定の場合、すなわち上述のエンジン回転数Eの超過時間Teが所定設定時間T12以下であり、運転者が警告に応じてエンジン回転数Eを抑えたと判定した場合、及び、ステップS124によりメモリ4に超過カウント値を加算した場合には、一般道路処理を終了する。

[0090] この一般道路処理において、燃料流量Fが車両走行時の最低噴射に係る所定設定値Foを超えている場合にだけ、エンジン回転数Eについての警告等を行なうようにしたのは、例えば、エンジンブレーキ作動時は、エンジン回転数Eが高まり所定設定値E1を超えたとしても、エンジンは最低燃料噴射状態にあるから、燃費を悪化させることにはならないためである。したがって、このような場合に運転者への警告等を行なう必要はなく、無用な警告を回避することにより、運転者へ与える不快感を排除することができる。

[0091] 図14に示すように、図11の高速道路処理Iは、CPU3が、高速道路処理情報として処理する車速S、アクセル開度変動dA、車速変動dS、トップギア不使用経過時間Tt2、補助ブレーキ使用率Bを用いて、次のように実行される。CPU3は、後の処理のため、まず、アクセル開度センサ13、18が検出したアクセル開度Aを読み込む(ステップS200)。次に、ステップS8で読み込んだ車速Sが、燃費を悪化させる車速で走行しているか否かを判別するために設けられた所定警告値S2を、超えているか否かを判定する(ステップS202)。

[0092] ステップS202の判定結果が肯定の場合、すなわち運転者が燃費を悪化させるよう

03の判定結果が肯定の場合には、運転者に対しスピーカ5からブザー等による警告を行なう(ステップS204)。

[0093] 次にCPU3は、車速Sが所定警告値S2を超えている超過時間Ts2を検出し(ステップS206)、この超過時間Ts2が所定設定時間T21を超えたか否かを判定する(ステップS208)。ステップS206の判定結果が肯定の場合、すなわちステップS204の警告を行なった後も、運転者が所定設定時間T21を超えてアクセルの過剰な踏み込みを継続した場合には、メモリ4に超過カウント値を加算し、その累積超過回数及び累積超過時間を記憶させる(ステップS210)。

[0094] このように、アクセル開度Aが所定設定値A₀を超えているときにだけ車速Sに関する警告を行なうのは、例えば、高速道路の下り坂走行時には、下り勾配により車速Sが所定警告値S2を超えても、アクセル開度Aが小さければ実際の際の燃料噴射量は少ないから、燃費を悪化させることにはならないからである。したがって、このような場合に運転者への警告等を行なう必要はなく、無用な警告を回避することにより、運転者へ与える不快感を排除することができる。

[0095] ステップS202の判定結果が否定の場合、すなわち車速Sが所定警告値S2以下であり、運転者は燃費を悪化させるような車速では走行していないと判定した場合、及び、ステップS203の判定結果が否定の場合、すなわちアクセル開度Aが所定設定値A₀以下である場合、及び、ステップS208の判定結果が否定の場合、すなわち上述の超過時間Ts2が所定設定時間T21以下であり、運転者が警告に応じて燃費を悪化させる車速での走行を中止したと判定した場合、及び、ステップS210によりメモリ4に超過カウント値を加算した場合には、次にCPU3は、ステップS200で読み込んだアクセル開度Aから、一定微小時間ΔTにおけるアクセル開度の変動量ΔAを求め、次式(1)によりアクセル開度変動dAを算出する(ステップS212)。

[0096]
$$dA = \Delta A / \Delta T \cdots (1)$$

CPU3は、このアクセル開度変動dAが、アクセルの過剰な変動を行っているか否かを判別するために設けられた所定警告値dA2を超えているか否かを判定する(ス

ルの過剰な変動を行っているか判定し、もし、 $dA > dA2$ ならば、

同様に、運転者への警告(ステップS216)、アクセル開度変動 dA が所定警告値 $dA2$ を超えている超過時間 Tda の検出(ステップS218)、この超過時間 Tda が所定設定時間 $T22$ を超えたか否かの判定(ステップS220)、ステップS220の判定結果が肯定の場合のメモリ4への超過カウント値の加算(ステップS222)を実行する。累積超過回数及び累積超過時間がメモリ4に記憶される。

[0097] 高速道路走行においては、特にアクセル開度変動 dA が燃費に大きく影響する。したがって、このアクセル開度変動 dA に基づく警告や超過の発生の記憶を行うことにより、省燃費管理を的確に行なうことができる。

[0098] ステップS214の判定結果が否定の場合、すなわちアクセル開度変動 dA が所定警告値 $dA2$ 以下であり、運転者がアクセルの過剰な変動を行っていないと判定した場合、及び、ステップS220の判定結果が否定の場合、すなわち上述の超過時間 Tda が所定設定時間 $T22$ 以下であり、運転者が警告に応じてアクセルの過剰な変動を中止したと判定した場合、及び、ステップS222によりメモリ4に超過カウント値を加算した場合、次にCPU3は、図15に示すように、ステップS8で読み込んだ車速 S から一定微小時間 ΔT における車速変動量 ΔS を求め、次式(2)により車速変動 dS を算出する(ステップS224)。

[0099]
$$dS = \Delta S / \Delta T \cdots (2)$$

CPU3は、この車速変動 dS が、燃費を悪化させる過剰な車速変動になっているか否かを判別するために設けられた所定警告値 $dS2$ を超えているか否かを判定する(ステップS226)。ステップS226の判定結果が肯定の場合、すなわち運転者が燃費を悪化させるような過剰な車速変動を行っていると判定した場合には、上述のステップS202～S208と同様に、運転者への警告(ステップS228)、車速変動 dS が所定警告値 $dS2$ を超えている超過時間 Tds の検出(ステップS230)、この超過時間 Tds が所定設定時間 $T23$ を超えたか否かの判定(ステップS232)、ステップS230の判定結果が肯定の場合のメモリ4への超過カウント値の加算(ステップS234)を実行する。累積超過回数及び累積超過時間がメモリ4に記憶される。

以下に図り、運転者が燃費を悪化させるような走行をしていないと判定した場合、及び、上述のステップS232の判定結果が否定の場合、すなわち上述の超過時間 T_{ds} が所定設定時間 $T23$ 以下であり、運転者が警告に応じて車速変動 dS を抑えたと判定した場合、及び、ステップS232によりメモリ4に超過カウント値を加算した場合、次にCPU3は、ステップS2で読み込んだエンジン回転数 E と、ステップS8で読み込んだ車速 S とから、トップギアを使用しているか否かを推定し判定する(ステップS236)。

[0101] ステップS236の判定結果が否定の場合、すなわち運転者がトップギアを使用していない場合には、トップギア不使用経過時間 T_t を検出し(ステップS238)、トップギア不使用経過時間 T_t が所定警告時間 T_{t2} を超えたか否かを判定する(ステップS240)。ステップS240の判定結果が肯定の場合、すなわち運転者が所定警告時間 T_{t2} を超えてトップギアを使用していない場合には、上述のステップS202～S208と同様に、運転者への警告(ステップS242)、トップギア不使用経過時間 T_t が所定設定時間 $T24$ を超えたか否かの判定(ステップS244)、ステップS244の判定結果が肯定の場合のメモリ4への超過カウント値の加算(ステップS246)を実行する。累積超過回数及び累積超過時間がメモリ4に記憶される。

[0102] ステップS236の判定結果が肯定の場合、すなわちトップギアが使用されており、運転者が燃費を悪化させるような走行をしていないと判定した場合、及び、ステップS240の判定結果が否定の場合、すなわち上述の経過時間 T_t が所定設定時間 $T24$ 以下であり、運転者が警告に応じてトップギアにシフトアップしたと判定した場合、及び、ステップS246によりメモリ4に超過カウント値を加算した場合、次にCPU3は、図16に示すように、補助ブレーキ作動部15、20から補助ブレーキの使用を検出し(ステップS248)、一定走行距離 L_o における使用回数 N から、次式(3)により補助ブレーキ使用率 B を算出する(ステップS250)。

[0103]
$$B = N / L_o \cdots (3)$$

CPU3は、この補助ブレーキ使用率 B が、燃費を悪化させる補助ブレーキの使用率

かを判定する(ステップS252)。ステップS252の判定結果が肯定の場合には、上述のステップS202～S208と同様に、運転者への警告(ステップS254)、補助ブレーキ使用率Bが所定警告値B2を超えている超過時間Tbの検出(ステップS256)、この超過時間Tbが所定設定時間T25を超えたか否かの判定(ステップS258)、ステップS258の判定結果が肯定の場合のメモリ4への超過カウント値の加算(ステップS260)を実行する。累積超過回数及び累積超過時間がメモリ4に記憶される。

- [0104] ステップS252の判定結果が否定の場合、すなわち補助ブレーキ使用率Bが所定警告値B2以下であり、運転者が燃費を悪化させるような走行をしていないと判定した場合、及び、ステップS256の判定結果が否定の場合、すなわち上述の超過時間Tbが所定設定時間T25以下であり、運転者が警告に応じて補助ブレーキの過剰な使用を中止したと判定した場合、及び、ステップS258によりメモリ4に超過カウント値を加算した場合には、高速道路処理Iを終了する。
- [0105] 図14ないし図16から明らかなように、上述の高速道路処理Iにおいては、アクセル開度Aに基づく運転者への警告等を行われない。これは、高速道路走行時には、一般に高いエンジン出力が要求され、アクセルを踏み込む必要性が高いためである。しかしながら、必要によりアクセル開度Aに基づく運転者への警告等を行なうこともでき、その場合の処理を高速道路処理IIとして、図17ないし図20に示す。
- [0106] 図17に示す高速道路処理IIのステップS300ないしS322は、上述の高速道路処理Iの図14に示すステップS200ないしS222と同様である。車速Sを所定速度以下に自動調整可能なスピードリミッタを備えている車両においては、次にCPU3は、そのスピードリミッタの作動信号を検出し、スピードリミッタが作動しているか否かを判定する(ステップS330)。
- [0107] ステップS330の判定結果が肯定の場合、すなわちスピードリミッタが作動している場合には、図19に示すステップS350以降の処理を実行し、ステップS322ないしS340の処理は実行しない。これは、上述の一般道路処理の図12に示すステップS100の場合と同様の理由による。ステップS330の判定結果が否定の場合、すなわちスピードリミッタが作動していない場合には、CPU3は、ステップS300で読み込んだアク

メモリ4に所定警報時間T26を記憶させる。CPU3は、メモリ4に記憶させた警報時間T26を参照する。

S332の判定結果が肯定の場合には、運転者に対しスピーカ5からブザー等による警告を行なう(ステップS334)。

[0108] 続いて、CPU3は、アクセル開度Aが所定警告値A2を超えている超過時間Ta2を検出し(ステップS336)、この超過時間Ta2が所定設定時間T26を超えているか否かを判定する(ステップS338)。ステップS338の判定結果が肯定の場合には、メモリ4に超過カウント値を加算し、その累積超過回数及び累積超過時間を記憶させる(ステップS340)。なお、スピードリミッタが作動しているときにも、アクセル開度Aに関する運転者への警告等を行うこともできる。また、スピードリミッタを装備していない車両においては、上述のステップS330の判定を行うことなく、ステップS332ないしS340を実行すればよい。

[0109] 上述のステップS332の判定結果が否定の場合、及び、上述のステップS338の判定結果が否定の場合、及び、ステップS340によりメモリ4に超過カウント値を加算した場合には、図19及び図20に示すステップS350ないしS386を実行する。このステップS350ないしS386は、上述の高速道路処理Iの図15及び図16に示すステップS224ないしS260と同様である。

[0110] 一方、図21に示すように、図10に示したアイドリング処理は、次のように実行される。CPU3は、アイドリング経過時間Tiを検出し(ステップS400)、アイドリング経過時間Tiが所定警告時間Ti3を超えたか否かを判定する(ステップS402)。ステップS402の判定結果が肯定の場合、すなわち運転者が所定警告時間Ti3を超えてアイドリングを経過させた場合には、運転者に対しスピーカ5からブザー等による警告を行なう(ステップS404)。

[0111] さらに、CPU3は、アイドリング経過時間Tiが所定設定時間T31を超えたか否かを判定する(ステップS406)。ステップS406の判定結果が肯定の場合、すなわちステップS404の警告を行なった後も、運転者が所定設定時間T31を超えてアイドリングを経過させた場合には、メモリ4に超過カウント値を加算し(ステップS408)、メモリ4にその累積超過回数及び累積超過時間を記憶させる。

設定時間T13以下であり、運転者がアイドリング状態を維持する場合は、ステップS405を実行した場合、及び、ステップS406の判定結果が否定の場合、すなわちアイドリング経過時間Tiが所定設定時間T31以下であり、運転者が警告に応じてエンジンを停止させたと判定した場合、及び、ステップS408によりメモリ4に超過カウント値を加算した場合には、アイドリング処理を終了する。

- [0113] ここで、上述の所定設定時間T11ないしT31は、車両上の設定器21により設定変更することができる。したがって、この所定設定時間T11等を設定変更をする場合に、解析装置本体2を一旦車両から取り外し、それを車両基地において、又は車両メーカに送って変更したり、あるいは、予めこの所定設定時間T11等を記憶させたメモリカードを作成し、そのメモリカードを用いて解析装置本体2の設定を変更する必要がなくなる。このように、本省燃費管理システムによれば、解析装置本体2に記憶させた所定設定時間T11等を、上述の設定器21を用いて車両上で迅速かつ容易に変更することができるから、省燃費管理を極めて円滑に行なうことができる。
- [0114] また、警告の発生と同時に、その警告の発生をメモリ4に記憶させるのではなく、警告を一旦運転者に与えた後に、なおかつその所定警告値等を満たす運転状態を所定設定時間T11等を超えて継続した場合に、はじめてメモリ4に記憶させるようにしたことにより、運転者に精神的負担を感じせず、自己の運転を是正する機会を与えることができ、省燃費管理を極めて円滑に行なうことができる。
- [0115] さらに、例えば高速道路走行中に、前車との車間距離が適切でないとあわてて減速し、再び加速して前者に追いつくということを繰り返すことがある。このような波状運転は安全上の問題があると共に、特に高速道路走行における燃費悪化の最大要因になっている。このように、一般道路走行と高速道路走行とは、省燃費管理の視点が異なり、それに伴って燃費解析に必要な情報も異なる。本省燃費管理システムによれば、一般道路走行と高速道路走行とに分けて情報の処理を行うから、的確な省燃費管理を行なうことができる。
- [0116] また、運転者や運行管理者は、車載プリンタ6から、車両上で直ちにそのときの運転状態を印字された形で、かつ正確に知ることができ、運転者の省燃費意識を一段

けで行なうこともでき、その場合には、特に取組む必要はない。従って、本実施形態の燃費管理システムは、事業所解析装置32が不要となり、小規模事業者の導入が一段と容易になる。

- [0117] 次に、本省燃費管理システムによる減速運転モニタリングについて、図22及び図23を参照して説明する。
- [0118] 車両の走行時に減速を行なう場合、アクセルを戻し、最低燃料噴射状態で走行するエンジンブレーキによる減速運転の距離が長ければ長い程、省燃費に貢献することができる。この一方、排気ブレーキ、リターダ等に代表される補助ブレーキを装備した車両は、この補助ブレーキの作動により優れたブレーキ特性を容易に得ることができるため、急減速及びそれに伴う急加速を繰り返す傾向が見受けられ、燃費悪化の大きな要因となっている。そこで、この減速運転モニタリングによって、特にこの補助ブレーキを装備した車両における、エンジンブレーキによる減速運転を的確にモニタリングする。
- [0119] 図22に示すように、CPU3は、燃料流量センサ14, 19が検出した燃料流量Fを読み込み(ステップS50)、燃料流量Fが車両走行時の最低噴射に係る所定設定値 F_0 未満であるか否かを判定する(ステップS52)。ディーゼルエンジン車においては車両走行時の最低燃料噴射量はアクセルを戻したときのゼロであるから、この所定設定値 F_0 はゼロに極めて近い数値で設定される。ここで、所定設定値 F_0 をゼロとしないのは、実際の燃料噴射はゼロであっても、燃料流量センサ14, 19による計測ではゼロを表示しないことがしばしば発生するためである。また、ガソリンエンジン車においては車両走行時にアクセルを戻したときにも一定量の燃料噴射があるから、所定設定値 F_0 はこの燃料噴射量に近い数値で設定される。
- [0120] ステップS52の判定結果が肯定の場合、すなわち燃料流量Fが車両走行時の最低噴射に係る所定設定値 F_0 未満である場合には、CPU3は、アクセル開度センサ13, 18が検出したアクセル開度Aを読み込み(ステップS54)、アクセル開度Aが略ゼロとなっているか否かを判定する(ステップS56)。略ゼロであるから、ゼロ又は計器誤差等を考慮したゼロに近い数値で設定される。
- [0121] このように、燃料流量Fが車両走行時における最低燃料流量を近似する所定設定

ロ状態として、その判定条件とすることにより、ノイズレベルの低い車、および、低回転エンジン車の最低燃料噴射走行を極めて正確に捕らえることができる。なお、このアクセル開度ゼロ状態を、燃料流量F又はアクセル開度Aのいずれか一方だけで判定してもよい。これによっても、車両の最低燃料噴射走行をかなり高い精度で捕らえることができる。

- [0122] ステップS56の判定結果が肯定の場合、すなわちアクセル開度Aが略ゼロとなっている場合には、補助ブレーキ作動部15、20から補助ブレーキの使用状態を検出し(ステップS58)、補助ブレーキが不使用か否かを判定する(ステップS60)。ステップS60の判定結果が肯定の場合、すなわち補助ブレーキが不使用の場合には、CPU3は、車速センサ11、16が検出した車速Sを読み込み(ステップS62)、この車速Sと経過時間とに基づいて、アクセル開度ゼロ状態かつ補助ブレーキ不使用での走行距離Lを算出し(ステップS64)、走行距離Lをメモリ4に加算して累積走行距離TLを記憶させる(ステップS66)。
- [0123] 上述のステップS52の判定結果が否定の場合、すなわち燃料流量Fが車両走行時の最低噴射状態にない場合、及び、上述のステップS56の判定結果が否定の場合、すなわちアクセル開度Aが略ゼロではない場合、及び、ステップS60の判定結果が否定の場合、すなわち補助ブレーキを使用している場合、及び、上述のステップS66によりメモリ4に累積走行距離TLを記憶させた場合には、電源がOFFであるか否かを判定する(ステップS68)。ステップS68の判定結果が否定の場合には、上述のステップS50以下を繰り返す。ステップS68の判定結果が肯定の場合には、減速運転モニタリングを終了する。
- [0124] 一方、車両が車速Sを所定車速に自動調整することができるオートクルーズシステムを装備している場合には、図23に示す減速運転モニタリングを実行する。図23のステップS70及びS72は、図22に示すステップS50及びS52と同様である。ステップS72の、燃料流量Fが車両走行時の最低噴射に係る所定設定値F₀未満であるか否かの判定結果が肯定の場合には、次にCPU3は、オートクルーズシステムが作動しているか否かを判定する(ステップS73)。ステップS73の判定結果が否定、すなわち

5000以内の値を夫11の1/1000に換算する。

- [0125] ステップS73の判定結果が肯定、すなわちオートクルーズシステムが作動している場合には、ステップS74のアクセル開度Aの読み込み、及びステップS76のアクセル開度Aが略ゼロとなっているか否かの判定を行わず、ステップS78の補助ブレーキの使用状態の検出以下を実行する。このように、オートクルーズシステムの作動時に、燃料流量Fが所定設定値F₀未満となっているときを以ってアクセル開度ゼロ状態とするのは、オートクルーズシステムの作動時には、運転者はアクセル操作を行わないため、アクセル開度Aによってアクセル開度ゼロ状態を判定することが困難なためである。
- [0126] 本減速運転モニタリングにより、特にこの補助ブレーキを装備した車両における、エンジンブレーキによる減速運転を的確にモニタリングすることができ、省燃費運転に対する解析データを運転者や運行管理者に最適に提供することができ、燃費改善の飛躍的な精度向上を図ることができる。
- [0127] 運転者や運行管理者は、メモリ4に記憶されたこの累積走行距離TLを、図5に示すように、車載プリンタ6から全累積走行距離に対する走行比率81として、車両上で直ちに出力することができる。したがって、運転者や運行管理者は、運転時、停車時、車両基地帰車時等に、そのときの運転状態を直前の実走行と対比させて直ちに知ることができ、運転者等の燃費向上への意識をさらに高めることができる。
- [0128] また、メモリ4に記憶された累積走行距離TLは、メモリカード31を介して事業所、車両メーカー等の事業所解析装置32に入力することにより、事業所解析装置32から出力される種々のレポートと組み合わされて、より詳細な分析を行うこともできる。この一方、車載解析装置1の本体2のメモリ4が記憶した燃料流量Fとアクセル開度Aと補助ブレーキ使用情報と車速Sとを、メモリカード31を介して事業所解析装置32に入力し、図22又は図23に示した一連の処理を事業所解析装置32により行うこともできる。
- [0129] なお、本省燃費管理システムにおいては、車両の走行状態に関する情報として、車速S、エンジン回転数E、アクセル開度A、燃料流量F、補助ブレーキの使用に関する情報を検出したが、これに限定されるものではなく、車両の他の情報を検出し、そ

もよい。また、上記の処理情報として、必ずしもアクセル開度は、アクセル開度のみでなく、アクセル開度Aを含む必要はない。また、この処理情報を一般道路処理情報と高速道路処理情報とに分けて、警告の発生や、超過の発生等のメモリ4への記憶を行なう必要もない。

- [0130] 一般道路処理情報と高速道路処理情報についても、必ずしも上述のものに限定されるものではない。設定器21による警告の発生の有無の切替え設定についても、必ずしも実施する必要はない。
- [0131] 本省燃費管理システムにおいては、車両の走行状態に関する情報として、車速S、エンジン回転数E、アクセル開度A、燃料流量F、補助ブレーキの使用に関する情報を検出したが、これに限定されるものではなく、車両の他の情報を検出し、車載プリンタにより、それらの処理情報に関する情報、警告の発生及び又は超過の発生に関する情報等を出力させるようにしてもよい。また、車載プリンタにより、設定器によって設定変更した所定警告条件や所定設定時間を必ずしも出力させる必要はない。
- [0132] 車載プリンタによって燃料消費率を必ずしも出力させる必要はなく、また、超過発生率が所定設定値を超えた場合の警告マークの表示も必ずしも実施する必要はない。さらに、運行開始スイッチと印字スイッチによって行なう各情報のメモリからの消去又は記憶の再開についても、必ずしも実施する必要はない。
- [0133] 一方、上述の減速運転モニタリングでは、アクセル開度ゼロ状態を、燃料流量Fが所定設定値F₀未満となったとき、かつ又はアクセル開度Aが略ゼロとなったときとしたが、これに限定されるものではなく、車両の他の情報に基づいてアクセル開度ゼロ状態を設定してもよい。また、燃料流量Fが車両走行時の最低噴射に係る所定設定値F₀未満であり、かつ補助ブレーキが不使用である走行距離Lを、そのときの車速Sと経過時間とに基づいて算出したが、これに限定されるものではなく、車両の他の情報に基づいて算出してもよい。
- [0134] また、車載プリンタ6の超過集計リポート71により、アクセル開度Aゼロかつ補助ブレーキ不使用での累積走行距離TLの全累積走行距離に対する走行比率81を表示させるようにしたが、これに限定されるものではなく、累積走行距離TLを直接表示さ

産業上の利用可能性

- [0135] 本発明の省燃費管理システムは、省燃費管理及びそのための運転者への支援を極めて円滑に行なうことができる。より詳細には、警告に対する運転者側の精神的負担を軽減することができる。また、車載解析装置に記憶させた車速等の所定警告値等の所定警告条件を迅速かつ容易に設定変更することができる。また、運転者や運行管理者が車両上でそのときの運転状態を直ちに、かつ正確に知ることができ、運転者の省燃費意識を一段と向上させることができると共に、分析までの一連の省燃費管理を車載解析装置だけで行なうこともでき、小規模事業者がより一層容易に導入することができる。また、特に補助ブレーキを装備した車両におけるエンジンブレーキによる減速運転を的確にモニタリングすることができ、燃費管理の飛躍的な精度向上を図ることができる。
- [0136] したがって、本発明の省燃費管理システムが搭載される車両はトラックやバスに限定されるものではなく、本発明の省燃費管理システムは、あらゆる種類の車両に対し、広く一般に利用することができる。

- [1] 車両の走行状態に関する情報(S, E, A, F)を検出する情報検出手段(11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20)と、前記情報検出手段が検出した前記情報を処理すると共に前記処理情報(A, dA, B, E, F, S, dS, Ti, Tt)が所定警告条件(A1, A2, dA2, B2, E1, S2, dS2, Ti3, Tt2)を満たしたときに警告を発生する情報処理手段(3)と、前記処理情報を記憶する情報記憶手段(4)とを前記車両上に備えた省燃費管理システムにおいて、前記情報処理手段は、前記処理情報が前記所定警告条件を満たしている時間(Ta1, Ta2, Tda, Tb, Tds, Te, Ts0, Ts2)又は前記処理情報の経過時間(Ti, Tt)が所定設定時間(T11, T12, T21, T22, T23, T24, T25, T26, T31)を超過したときに前記超過の発生を前記情報記憶手段に記憶させることを特徴とする省燃費管理システム。
- [2] 車両の走行状態に関する情報(S, E, A, F)を検出する情報検出手段(11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20)と、前記情報検出手段が検出した前記情報を処理すると共に前記処理情報(A, dA, B, E, F, S, dS, Ti, Tt)が所定警告条件(A1, A2, dA2, B2, E1, S2, dS2, Ti3, Tt2)を満たしたときに警告を発生する情報処理手段(3)とを前記車両上に備えた省燃費管理システムにおいて、前記所定警告条件を変更することができる設定器(21)を前記車両上にさらに備えたことを特徴とする省燃費管理システム。
- [3] 車両の走行状態に関する情報(S, E, A, F)を検出する情報検出手段(11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20)と、前記情報検出手段が検出した前記情報を処理すると共に前記処理情報(A, dA, B, E, F, S, dS, Ti, Tt)が所定警告条件(A1, A2, dA2, B2, E1, S2, dS2, Ti3, Tt2)を満たしたときに警告を発生する情報処理手段(3)と、前記処理情報を記憶する情報記憶手段(4)とを前記車両上に備えた省燃費管理システムにおいて、設定器(21)を前記車両上にさらに備え、前記情報処理手段は、前記処理情報が前記所定警告条件を満たしている時間(Ta1, Ta2, Tda, Tb, Tds, Te, Ts0, Ts2)又は前記処理情報の経過時間(Ti, Tt)が所定設定時間(T11, T12, T21, T22, T23, T24, T25, T26, T31)を超過したときに前記

ひ又は前記閉止設定時間を決定するプログラムによって決定されるプログラム管理システム。

- [4] 前記車両の走行状態に関する情報は、アクセル開度(A)を含むことを特徴とする請求項1ないし3のいずれか一つに記載の省燃費管理システム。
- [5] 前記処理情報は、前記アクセル開度(A)及び又は前記アクセル開度(A)の単位時間当たりの変動量であるアクセル開度変動(dA)を含むことを特徴とする請求項4に記載の省燃費管理システム。
- [6] 前記車両は、車速(S)を所定速度以下に自動調整するスピードリミッタを備え、前記情報処理手段(3)は、前記スピードリミッタが作動していないときに前記アクセル開度(A)に関する警告を行なうことを特徴とする請求項5に記載の省燃費管理システム。
- [7] 前記処理情報は、一般道路処理情報と高速道路処理情報とからなることを特徴とする請求項1ないし6のいずれか一つに記載の省燃費管理システム。
- [8] 前記一般道路処理情報は、車速(S)、エンジン回転数(E)、アクセル開度(A)、アイドリング経過時間(Ti)のいずれか一つ又は二つ以上の任意の組み合わせからなることを特徴とする請求項7に記載の省燃費管理システム。
- [9] 前記情報処理手段(3)は、前記車両の走行状態に関する情報として燃料流量(F)を検出し、前記燃料流量が所定設定値(Fo)を超えるとときに前記エンジン回転数(E)に関する前記警告を行なうことを特徴とする請求項8に記載の省燃費管理システム。
- [10] 前記高速道路処理情報は、車速(S)、アクセル開度変動(dA)、車速変動(dS)、トップギア不使用経過時間(Tt2)、補助ブレーキ使用率(B)のいずれか一つ又は二つ以上の任意の組み合わせからなることを特徴とする請求項7に記載の省燃費管理システム。
- [11] 前記情報処理手段(3)は、前記車両の走行状態に関する情報としてアクセル開度(A)を検出し、前記アクセル開度が所定設定値(Ao)を超えるとときに前記車速(S)に関する前記警告を行なうことを特徴とする請求項10に記載の省燃費管理システム。

器(21)は、前記情報処理手段に対し前記切替可能な状態に設定するべく、前記情報処理手段は、前記設定器によって前記切替が可能に設定されたときに前記警告の発生の無しへ切り替えることができることを特徴とする請求項2ないし11のいずれか一つに記載の省燃費管理システム。

- [13] 車両の走行状態に関する情報(S, E, A, F)を検出する情報検出手段(11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20)と、前記情報を処理する情報処理手段(3)と、前記情報処理手段が処理した前記処理情報(A, dA, B, E, F, S, dS, Ti, Tt, TL)を記憶する情報記憶手段(4)とを前記車両上に備えた省燃費管理システムにおいて、前記情報記憶手段に記憶された前記処理情報に関する情報(44, 45, 46, 47, 48, 49, 63, 64, 65, 66, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 80, 81)を出力することができるプリンタ(6)を前記車両上に備えたことを特徴とする省燃費管理システム。
- [14] 前記情報処理手段(3)は、前記処理情報(A, dA, B, E, F, S, dS, Ti,)が所定警告条件(A1, dA2, B2, E1, S2, dS2, Ti3, Tt2)を満たしたときに警告を発生し、かつ前記処理情報が前記所定警告条件を満たしている時間(Ta, Tda, Tb, Tds, Te, Ts0, Ts2)又は前記処理情報の経過時間(Ti, Tt)が所定設定時間(T11, T12, T21, T22, T23, T24, T25, T31)を超過したときに前記超過の発生を前記情報記憶手段(4)に記憶させ、前記プリンタ(6)は、前記情報記憶手段(4)に記憶された前記警告の発生及び又は前記超過の発生に関する情報(63, 64, 65, 66, 74, 75, 76, 77)を出力できることを特徴とする請求項13に記載の省燃費管理システム。
- [15] 前記情報処理手段(3)は、前記超過の発生回数を算出し、前記超過の発生回数から超過発生率(Rs, Ra, Re, Ri)を算出し、前記超過発生率が所定設定値(Rso, Rao, Reo, Rio)を超えたとき前記プリンタ(6)から出力される前記処理情報に関する情報(74~77)に警告マークを表示させることを特徴とする請求項14に記載の省燃費管理システム。
- [16] 前記超過発生率(Rs, Ra, Re, Ri)は、前記車両の走行距離(78)に対するものであることを特徴とする請求項15に記載の省燃費管理システム。

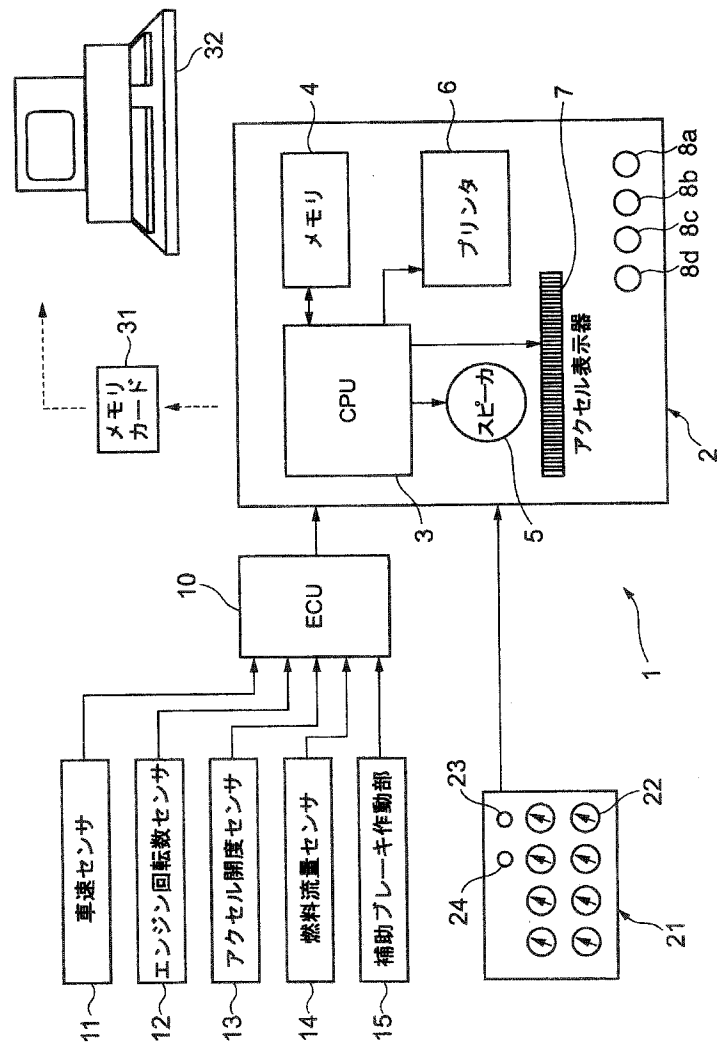
前記燃料消費率(80)を出力することとを特徴とする請求項13ないし17のいずれか一つに記載の省燃費管理システム。

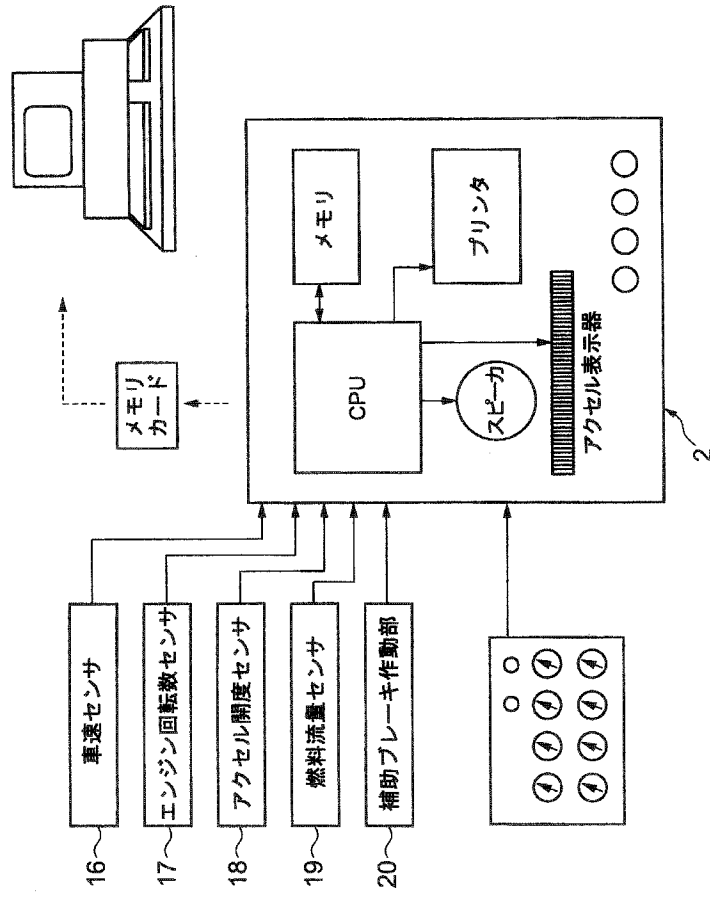
- [18] 前記車両の運行開始時に操作する運行開始スイッチ(8d)と、前記プリンタ(6)の出力時に操作する印字スイッチ(8b)とをさらに備え、前記情報処理手段(3)は、前記運行開始スイッチの操作時に前記情報記憶手段(4)に記憶された前記処理情報(A, dA, B, E, F, S, dS, Ti, Tt, TL)に関する情報の消去及び前記処理情報に関する情報の前記情報記憶手段への記憶の再開を行なうと共に、前記印字スイッチの操作時に前記情報記憶手段に記憶された前記処理情報に関する情報の消去を行なうことを特徴とする請求項13ないし17のいずれか一つに記載の省燃費管理システム。
- [19] 前記所定警告条件(A1, dA2, B2, E1, S2, dS2, Ti3, Tt2)及び又は前記所定設定時間(T11, T12, T21, T22, T23, T24, T25, T31)を設定変更することができる設定器(21)を前記車両上にさらに備え、前記プリンタ(6)は、前記設定器により設定変更された前記所定警告条件(44~47)及び又は前記所定設定時間(48, 49)を出力することができることを特徴とする請求項14ないし18のいずれか一つに記載の省燃費管理システム。
- [20] 補助ブレーキを有する車両の燃費に関する解析を行なう車載解析装置(1)及び又は事業所解析装置(32)を備えた省燃費管理システムにおいて、前記車両の燃料流量(F)及び又はアクセル開度(A)と補助ブレーキの使用に関する情報とを検出する情報検出手段を前記車載解析装置に備え、前記燃料流量及び又は前記アクセル開度と前記補助ブレーキの使用に関する情報とに基づいてアクセル開度ゼロ状態かつ補助ブレーキ不使用状態で走行した累積走行距離(TL)を算出する情報処理手段(3)と、前記情報処理手段が算出した前記累積走行距離を記憶する情報記憶手段(4)とを前記車載解析装置及び又は前記事業所解析装置に備えたことを特徴とする省燃費管理システム。
- [21] アクセル開度ゼロ状態は、燃料流量(F)が所定設定値(Fo)未満となったとき、かつ又は、アクセル開度(A)が略ゼロとなったときとすることを特徴とする請求項20に

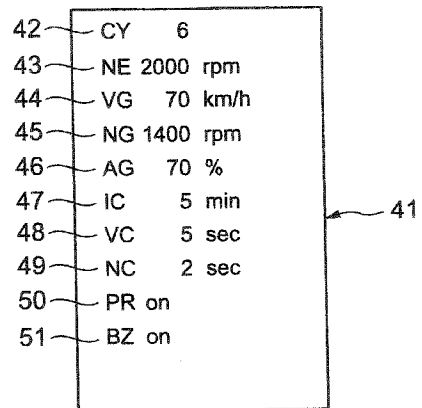
- [22] 前記車両は、半速(1/2)を所定手段に自動調整可能なシステムを備え、前記情報処理手段(3)は、前記オートクルーズシステムの作動時には前記燃料流量(F)が前記所定設定値(F_0)未満となっているときにアクセル開度ゼロ状態とすることを特徴とする請求項21に記載の省燃費管理システム。
- [23] 前記車両の车速(S)を検出する情報検出手段(11)をさらに備え、前記情報処理手段(3)は、前記情報検出手段が検出した前記车速と、前記アクセル開度ゼロ状態かつ前記補助ブレーキ不使用状態で走行した経過時間とに基づいて前記累積走行距離(TL)を算出することを特徴とする請求項20ないし22のいずれか一つに記載の省燃費管理システム。
- [24] 前記情報記憶手段(4)が記憶した前記累積走行距離(TL)に関する情報(81)を出力することができるプリンタ(6)を前記車載解析装置(1)に備えたことを特徴とする請求項20ないし23のいずれか一つに記載の省燃費管理システム。

要 約 書

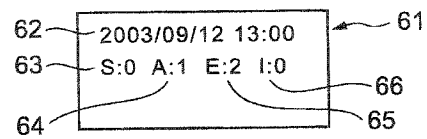
省燃費管理及びそのための運転者への支援が極めて円滑にできる省燃費管理システムである。車両の走行状態に関する情報を検出する情報検出手段(11~15)と、上記情報を処理すると共にこの処理情報が所定設定条件を満たしたときに警告を発生する情報処理手段(3)と、上記処理情報を記憶する情報記憶手段(4)とを車両上に備え、情報処理手段は、上記処理情報が所定設定条件を満たしている時間又は上記処理情報の経過時間が所定設定時間を超過したときに超過の発生を情報記憶手段に記憶させる。上記所定設定条件を変更できる設定器(21)及び上記処理情報に関する情報を出力できるプリンタ(6)を車両上に備える。アクセル開度ゼロ状態かつ補助ブレーキ不使用状態で走行した累積走行距離を算出する情報処理手段(3)と、この累積走行距離を記憶する情報記憶手段(4)とを車載解析装置(1)及び又は事業所解析装置(32)に備える。







[図4]



	TOTAL	
72	2003/09/12 12:58	
73	2003/09/12 13:33	
74	SPEED: 0	85
75	ACCEL: 7*	86
76	ENGINE: 16*	71
77	IDLE : 2	
78	KYORI 5.9 km	
79	SYOHI 2.6 L	
80	NENPI 2.3 km/L	
81	ACOFF 5.8 %	

[図6]

